

北一明記念館の開館式におけるご挨拶

(2023年10月24日 長野県飯田市)

おはようございます。

ただいまご紹介に預かりました中国大使館の岑松です。

皆様のご努力の下、北一明記念館が、先生の地元である長野県飯田市に正式に開館される運びとなりました。本日の開館式にお招きいただき、大変光栄に思います。中国大使館を代表して、北一明記念館のご開館に心から熱烈な祝意を表したいと思っております。ご開館、おめでとうございます。

北一明先生は、世界的にも有名な陶芸家で、反戦、反核の平和運動に生涯を捧げられました。彼は、芸術作品を武器に、戦争の惨たらしさや平和の有難さを訴え、鑑賞者に感動を与えると同時に、考えを促し、さらに多くの人に、反戦平和運動に身を投じさせてきました。先生がご親交のあった趙撲初先生がかつて仰ったように、北一明先生の作品は「軍隊が持つ武器よりも強い平和愛好の心の武器を人々に持ってもらうこととなります。」現在、世界は百年以来の大きな変動期にあり、国際情勢が複雑で深刻であります。戦争のリスク、特に核戦争のリスクが、減少するどころか、益々増大しています。こうした中、我々はここに北一明先生の記念館を開設することで、先生を偲び、平和、反戦、反核の思想や主張を改めて思い起こし、こうした思想や主張を絶えず世界に広げ、後世に伝えていく決意を新たにしました。とても意義のあることです。

北先生は、生前、日中友好を固く主張し、たびたび中国を訪問され、心の通じ合う中国の友人をたくさん作られ、その作品が人民大会堂や釣魚台国賓館などの国家級の機構にも収蔵されており、中日友好や相互理解の促進に重要な貢献をなさいました。先生がお亡くなり丸11年になりましたが、我々は、ここで先生のご功績に深く思いをいたすと同時に、ご臨席の皆様とともに、両国関係の改善と発展、世界平和の維持と促進のため、引き続き弛まぬ努力をしていきたいと思っています。どうぞ、ご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、産声をあげたばかりの北一明記念館が益々のご成長、ご発展を祈念し、ご臨席の皆様の益々のご健勝、ご幸福を心からお祈り申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。